

あいち農産物生産流通レポート

平成30年8月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 東京都中央卸売市場における平成29年産の愛知県産農産物の動向	(東京事務所) 1
・ カーネーション「カーネアイノウ1号」の栽培マニュアルを作成	(農業総合試験場) 3
◎ 東日本情報	
・ 京浜市場野菜連絡会からの主要品目に対する産地への提言	(東京事務所) 5
◎ フラワーページ	
・ 花いっぱい県民運動について	(園芸農産課) 7
・ 農業大学の学生が都内生花店の販売事情を学ぶ	(東京事務所) 9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切り花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	24

※今月、「地域トピックス」「西日本情報」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農林水産部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」

<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>

名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」

http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

東京都中央卸売市場における 平成 29 年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

平成 29 年産（平成 29 年 1 月から 12 月まで）の東京都中央卸売市場での愛知県産農産物の総取扱額は 339 億円（シェア 5.2%）で 47 都道府県の中で第 5 位でした。

また、総取扱額の内訳は、野菜が 201 億円（前年対比 102.1%）、果実が 20 億円（同 91.9%）、花きが 118 億円（同 93.3%）となりました。

1 野菜

東京都中央卸売市場の野菜総取扱額は 3,895 億円で、前年を 4.6% 下回りました。

本県産について、キャベツは本県の主力となる厳冬期（1、2 月）の単価が好調で、秋以降も天候不順により入荷量は減少したものの単価が高騰し、取扱額が前年を大幅に上回りました。一方、トマトは年明けからの入荷増に加えて前年の高値反動が大きく、単価が伸びず販売に苦戦する年となりました。秋以降も天候不順による着花不良、その後の低温による着色不良、収穫遅れが続き、取扱額は前年を大幅に下回りました。

品目別では、露地野菜と施設野菜で明暗が分かれ、県産農産物の野菜全体の取扱額は前年をやや上回りました。

表 1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	平成 29 年	前年対比	順位(シェア)*	上位産地
野菜合計	20,119,103	102.1%	5位(5.2%)	①茨城、②千葉、③北海道
キャベツ	5,811,567	137.2%	1位(30.3%)	②千葉、③群馬
トマト	2,791,201	83.9%	3位(9.1%)	①熊本、②栃木
おおば	2,731,499	91.9%	1位(80.0%)	②茨城、③大分
ミニトマト	2,641,180	88.6%	2位(17.6%)	①熊本、③北海道
ブロッコリー	1,462,128	107.5%	3位(12.9%)	①香川、②北海道

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

2 果実

東京都中央卸売市場の果実総取扱額は 1,806 億円で、前年比 101.2% と概ね前年並となりました。

本県産については、いちじくは出荷量が前年をわずかに上回ったことに加え、9 月までの全国的な単価が前年より高く推移したため、取扱額が前年をかなり上回りました。みかん類は主力となるハウスみかんの 4～6 月にかけての出荷量が前年より大きく減少したこともあり、取扱高が前年を大幅に下回りました。いちごは単価が前年並だったものの、10～12 月の出荷量が天候不順の影響もあり前年を大幅に下回ったことなどから、取扱額が前年をかなり下回りました。

こうした動きの結果、県産農産物の果実全体の取扱額は前年をかなり下回りました。

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	平成29年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
果実合計	1,996,299	91.9%	17位(1.1%)	①青森、②栃木、③愛媛
いちじく類	547,100	107.7%	1位(54.3%)	②和歌山、③静岡
みかん類	429,575	82.6%	8位(1.4%)	①愛媛、②静岡、③長崎
いちご類	413,105	93.0%	9位(1.3%)	①栃木、②福岡、③茨城
かき類	378,993	80.8%	6位(6.5%)	①和歌山、②奈良、③福岡
メロン類	52,887	116.4%	10位(0.5%)	①茨城、②静岡、③熊本

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

3 花き

東京都中央卸売市場の花き総取扱額は856億円で、前年を4.1%下回りました。

本県産については、菊類は出荷量が前年をやや下回ったほか、単価もかなり下回り、取扱額は前年対比89.5%となりました。ばら類は出荷量と単価ともに前年並で、取扱額は前年対比100.5%となり、国内順位が前年の2位から1位に上昇しました。カーネーション類は出荷量が前年をやや下回ったほか、単価もやや下回り、取扱高は前年対比93.7%となりました。こうした主要品目の動きの結果、県産農産物の切花全体の取扱高は前年をかなり下回りました。

また、観葉植物は出荷量が前年をかなり下回る一方、単価はかなり上回りましたが、取扱高は前年対比94.8%となりました。鉢花は出荷量と単価がともに前年をやや下回り、取扱高は前年対比92.7%となりました。らん鉢は出荷量と単価がともに微減して、取扱高は前年対比97.2%となりました。

以上の結果、県産農産物の花き全体の取扱額は前年をかなり下回りました。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	平成29年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
花き合計	11,765,051	93.3%	1位(13.8%)	②千葉、③埼玉
切花計	8,650,334	91.9%	1位(15.2%)	②千葉、③静岡
菊類	5,958,048	89.5%	1位(39.7%)	②沖縄、③茨城
ばら類	885,157	100.5%	1位(14.2%)	②静岡、③山形
カーネーション類	308,664	93.7%	3位(5.5%)	①長野、②千葉
観葉植物	1,242,195	94.8%	1位(35.7%)	②静岡、③鹿児島
鉢花	632,337	92.7%	3位(11.4%)	①埼玉、②東京
らん鉢	528,632	97.2%	4位(11.6%)	①埼玉、②栃木、③山梨

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

カーネーション「カーネアイノウ1号」の栽培マニュアルを作成

農業総合試験場

1 はじめに

愛知県は全国第2位のカーネーション生産県で、出荷量は全国の約17%を占めています。一方、我が国のカーネーション市場は輸入切花の割合が増加し、2012年からは国内流通量の半数を超えています。

この現状を打破するため、農業総合試験場は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共同で、国内産カーネーションの強みである日持ち性が特に優れるピンク色のスプレーカーネーション「カーネアイノウ1号」（2018年3月23日品種登録、流通名：ドリーミーブロッサム）を育成しました。栽培は年々増加しており、知名度も高まりつつあります。

農業総合試験場では、愛知県での一般的な作型における「カーネアイノウ1号」の高品質安定生産のための栽培マニュアルを作成したので紹介します。

2 「カーネアイノウ1号」の品種特性

(1) 特徴

本品種の特徴は以下になります。

- ・日持ち期間は一般的な品種の約3倍と極めて良い。
- ・茎は太くて硬く、伸長性がよい。
- ・開花が早く、年内及び年間の収量が多い。
- ・秀品率が高い。



「カーネアイノウ1号」

(2) 日持ち性が良い理由

カーネーションは、老化ホルモンと呼ばれるエチレンを自ら生成し、花卉を萎れさせます。本品種は、エチレンの生成量がほとんどないため、他の品種と比べ日持ちが良くなります（表1）。

表1 老化時の花のエチレン生成量

品種名	エチレン生成量 (nL/gFW・h ⁻¹)
カーネアイノウ1号	検出限界以下
シルエット	66.7 ± 21.4
チカス	27.8 ± 8.3

3 栽培マニュアルの概要

(1) 作型

愛知県は11月頃から翌年6月頃まで出荷する秋～春切り作型の産地ですが、早生の本品種は10月から収穫を始めることが可能です（図1）。

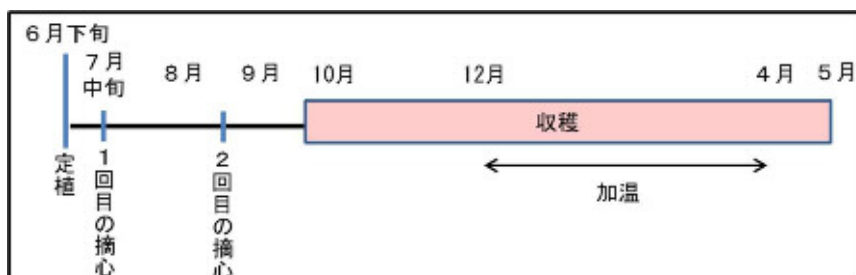


図1 秋～春切り作型における「カーネアイノウ1号」の作業体系

(2) ポイントとなる栽培管理

ア 定植時期

定植は6月中を目安に行います。

7月上旬に定植すると、6月下旬定植に比べ、開花日が1か月遅くなり、収穫本数が減ります(表2)。

イ 1番花の収穫方法

1番花の収穫方法は、2番花用の芽を1または2芽残して収穫する方法が一般的ですが、本品種は芽の数に関係なく切花長60cmで収穫しても、年間の収量が確保でき、秀品率も高くなります(表3)。

また、1番花の収穫方法(1芽残し、2芽残し、60cm収穫)により、収穫のピーク時期は異なります。そのため、複数の収穫方法を組み合わせ、安定した収量を確保することも可能となります。

ウ 冬期の加温温度

冬期の加温温度は10℃以上とします。低温により花色が薄くなりますが、加温温度が10℃以上であれば、品種の特徴が生かされたピンク色を発現できます(図2)。

エ その他

節から折れやすい品種となり、特に冬期の出荷調整には注意が必要です。

また、病害虫対策としては、従来品種と同様に土壌消毒をしっかりと行うとともに、ハダニ類、アザミウマ類等の早期発見、早期防除に努めてください。

4 おわりに

「カーネアイノウ1号」は、2018年は10月から5月までに約43万本が愛知県から全国に出荷される予定です。また、本品種の利用許諾を受けた種苗会社3社(2018年6月現在)は全国での販売網を持ち、県内のみならず全国でも栽培が拡大しつつあります。

日持ち性に優れた本品種が、国内産カーネーションの起爆剤になると期待し、全国から周年安定的に供給されるよう、さらなる普及に努めていきます。

なお、栽培マニュアルは愛知県農業総合試験場 Web ページ(<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>)の「研究の成果(技術情報)」から入手できます。

表2 定植日の違いが収量におよぼす影響

定植日	1回目 摘心	2回目 摘心	開花日 ¹⁾	収穫本数	
				年内	年間 ²⁾
6/26	7/11	8/29	10/7	2.8	8.1
7/8	7/25	9/3	11/7	1.2	5.9

1) 供試株の10%が開花に達した日。

※試験期間: 2016年6月~2017年5月

表3 1番花の収穫方法による収量、品質への影響

収穫方法	収穫本数		秀品率 ¹⁾	
	年内	年間 ²⁾	年内	年間
	本/株	本/株	%	%
1芽残し	2.8	8.1	19.1	70.3
2芽残し	2.6	8.2	14.3	69.4
60cm収穫	3.3	8.8	66.3	86.3

1) 秀品率は年内は切花長60cm以上、年明けは70cm以上、下垂度1、着色花蕾数4以上のものとした。

2) 収穫期間は、5月末までとした。

定植: 2016年6月26日、1回目摘心: 7月11日、2回目摘心: 8月29日(5本整枝、うち2本摘心)。



図2 加温温度による花色の違い

京浜市場野菜連絡会からの主要品目に対する産地への提言

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

7月3日（火）、首都圏の青果卸売会社31社、JAあいち経済連及び愛知県により構成される「京浜市場愛知県野菜連絡会」の第43期全体会議（総会）並びに秋冬野菜出荷反省会が開催されました。本会議において、平成29年作秋冬野菜の6月までの出荷状況に対する情勢報告と、平成30年秋冬作に向けた産地への提言が行われましたので紹介します。

1 平成29年度販売概要

京浜・関東市場における販売結果は、JAあいち経済連の取扱実績で、数量89,000 t（前年対比101%）、金額278億円（同106%）となりました。主要品目の数量はキャベツ：51,284 t（同105%）、トマト：10,538 t（同97%）、ミニトマト：6,041 t（同105%）、ブロッコリー：5,631 t（同90%）、おおば：1,435 t（同99%）でした。

流通面では、秋期の日照不足・台風により入荷量を減らしたキャベツなどの葉物類の記録的な高騰と、それに伴う輸入品の増加、冬期の低温などにより生育が停滞し入荷が集中したトマトの滞荷などが課題となった年でした。

2 主要品目の販売経過と産地への提言

（1）キャベツ

当初は豊作基調でしたが、10月の2度の台風により状況が一変し、定植直後の冠水や強風により根が傷んだことで、全国の競合産地同様に愛知県産も顕著な小玉、不作傾向となりました（図1）。販売金額は、単価が記録的な高騰を見せ、入荷減分を穴埋めすることができましたが、量販店では価格を抑えるために1/4玉、1/8玉などの少量カット売りが主流となりました。業務・加工需要でも契約量が調達できず、年明け以降は台湾、韓国、中国などから相当量の輸入がありました。

輸入品は、一度入ってしまうと長期契約や他品目とのセット契約という道ができ、定着すれば業務用以外の需要も脅かすため、『産地間連携や冷凍形態での出荷、鉄コン対応の強化・検討を急ぐ必要がある』との提言が出されました。輸入品を定着・一般化させないための産地と市場、流通業者の密な連携が求められています。

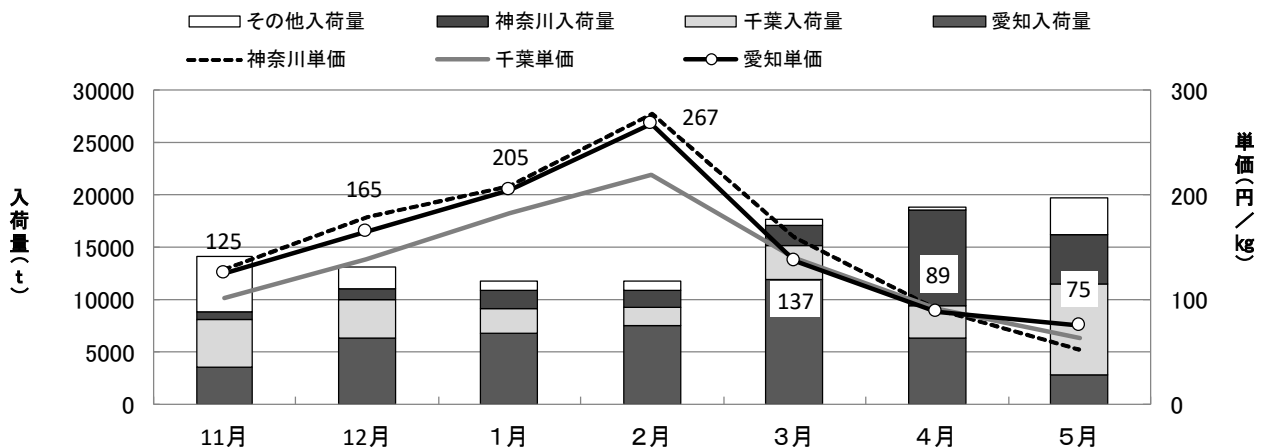


図1 キャベツの産地別入荷量と単価の推移（平成29年11月～平成30年5月）

(2) トマト、ミニトマト

定植遅れと低温、重油高騰が重なったことで全国的に生育が遅れ、年末から年明けは入荷量が激減し高値となりました（図2）。しかしながら、1月下旬からはその反動により各産地からの入荷が極端に集中したことで価格が低迷しました。積極的な加温を行う愛知県産は比較的計画どおりの出荷が行われましたが、他産地からの大量入荷などの影響を受け、価格が安い方に引きずられる苦しい展開となりました。

厳寒期の1、2月は、もともと需要期ではありませんが、秋冬期間を通して長期穫りを行う愛知県産では、価格を下げたくない重要な時期となります。市場では、これまで愛知県の産地が取り組んできた品質維持と安定出荷を評価しており、これを量販店に認めてもらうためにも、『需要期でないからこそ他産地と比べはっきりとしたクオリティの違いを打ち出す必要がある』との提言が出されました。食味の高位平準化など、ウリとなる品質を提示し、安定供給することが求められています。

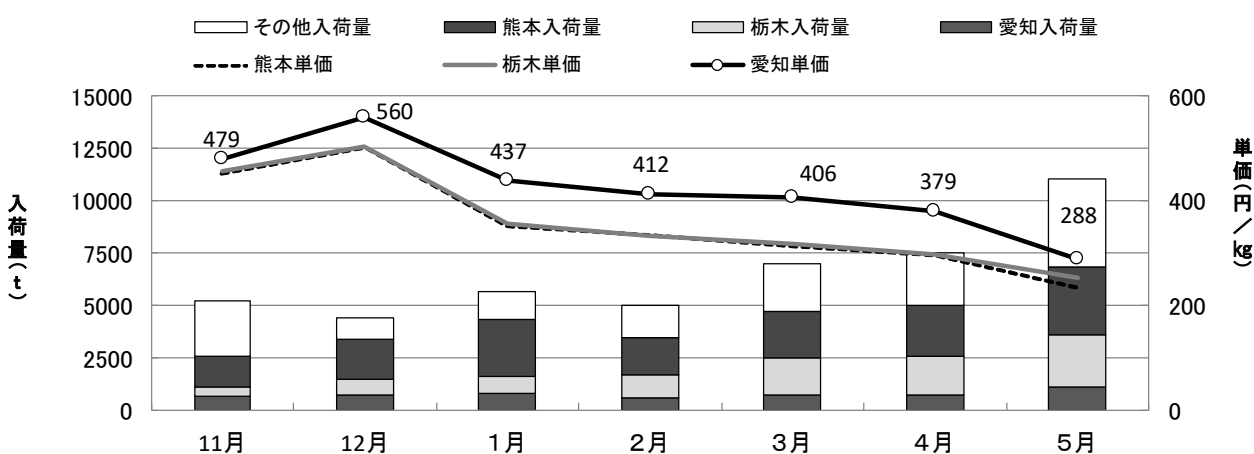


図2 トマトの産地別入荷量と単価の推移（平成29年11月～平成30年5月）

(3) 洋菜（ブロッコリー）

ブロッコリーについては、もともと露地の作目であるため台風や低温、乾燥等の影響を受けやすく、平成29年作も台風と低温により入荷量が減少し、春先まで不安定な入荷と高値が続きました。

競合産地では、ここ数年、発泡スチロール箱の利用や氷詰め出荷に加えて、冷蔵庫を活用した出荷日の調整や需要の多い週末に出荷を集中させるなど、マーケットの要望に合わせた出荷に取り組まれています。量販店や業者からは依然として愛知県産に対する品質の評価が高く、強いニーズがありますが、『一歩先に進んだ供給体制を考えてもらいたい』との提言が出されました。秋冬期の供給を支えてきた愛知県に、競合産地以上の出荷体制の強化を期待する声が挙がっています。

3 愛知県産地に対する期待

卸売会社の担当者からは、多くの品目が台風等による影響を受け入荷不安定となる中、愛知県の生産者や農協担当者、経済連担当者が「安定供給」という言葉をよく口にし、心がけてくれたことに、心強さを感じたという声が聞かれました。平成29年作は、天候や他産地の動向など外部要因による問題が多く発生しましたが、その中で愛知県の産地が持つ『安定した品質と供給力』や『対応できる行動力』に期待が高まっているという印象を受けました。

花いっぱい県民運動について

園芸農産課

愛知県の平成 28 年産の花き産出額は 572 億円で、昭和 37 年以降、55 年連続して日本一を誇っています。しかし、総務省が実施している家計調査によると、名古屋市の一世帯当たりの「切花」の年間支出金額は、全国的に下位にあり（平成 29 年は 31 位）、消費は多くありません。また、愛知県の花き産出額についても、平成 20 年から急激に減少し、平成 28 年産は平成 19 年産対比 81%となるなど、花きの需要拡大が課題となっています。

そこで愛知県では、平成 25 年度から市町村や花き関係団体等と連携して「花の王国あいち県民運動実行委員会」を組織し、「花の王国あいち」を県民の皆様にも PRするとともに暮らしの中に花を取り入れていただく「花いっぱい県民運動」を展開しています。本取組では、県内主要施設におけるあいちの花の装飾展示（花の王国あいち PR 促進運動）や、あいちの花を用いた花育教室の開催（あいちの花育推進事業）、スポーツシーンなどにおけるあいちの花の提供（花の王国あいちパートナーシップ事業）、商店街や病院等での専門家による技術指導支援（花のまちづくり推進事業）などを行っています（図 1）。

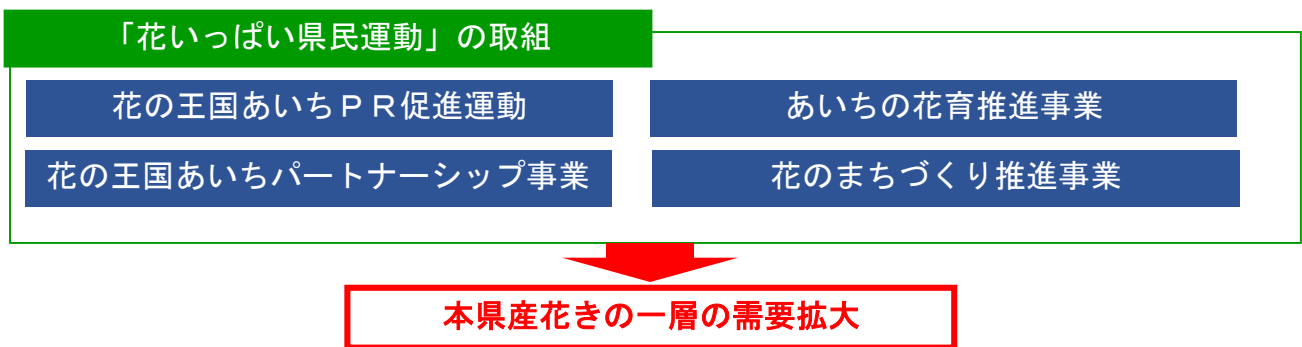


図 1 花いっぱい県民運動の取組について

1 花の王国あいち PR 促進運動

「今月のあいちの花」を設定し、マスコミ等への PR 活動や、県内主要施設（本庁舎、中部国際空港、豊橋駅）等での装飾展示を行っています。また、本県と一緒に花きの需要拡大に取り組む企業等を募集し、「花の王国あいちサポート企業」として認定しています。



「今月のあいちの花」豊橋駅コンコースでの展示
（「デルフィニウム」平成 30 年 4 月）



「花の王国あいちサポート企業」の認定式
（平成 30 年 3 月 23 日）

2 あいちの花育推進事業

花育ティーチャー（花の専門的知識や装飾技能を持ち、学校や施設等でその普及指導ができる方）を募集・登録するとともに、県内の小学校や各種イベント等において花育教室を開催しています。花育ティーチャーの合計登録数は、14 団体、51 個人です（平成 30 年 7 月 20 日現在）。また、平成 29 年度は県内小学校における花育教室を 36 校、2,443 名で実施しました。



花育教室の様子
（フラワーアレンジ）



花育教室の様子
（花壇づくり）

3 花の王国あいちパートナーシップ事業

スポーツシーンにおけるビクトリーブーケの贈呈など、花以外のイベント等において、あいちの花を提供して花の王国を幅広い県民にPRしています。平成 29 年度は、8 件のスポーツイベント等で、あいちの花を使用した花束の贈呈を行いました。



大相撲名古屋場所優勝力士への花束贈呈
（平成 29 年 7 月 23 日）



アイアンマン70、3セントレア知多半島
ジャパンでの優勝選手への花束贈呈
（平成 30 年 6 月 17 日）

4 花のまちづくり推進事業について

商店街、企業、病院等における「あいちの花」の活用を進めるため、専門家による技術指導支援を実施しています。平成 29 年度は、県内各地で 5 件実施しました。



地域での花壇づくり



整備された花壇

農業大学の学生が都内生花店の販売事情を学ぶ

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

平成30年7月11日（水）に、愛知県立農業大学の鉢物・緑花木専攻の学生たちが東京都内の生花店を視察しました。都内の生花店における販売動向や、生花店が販売時に心がけていることについて、学生とのやり取りを交えてお伝えします。

1 都内生花店で売れる花の推移

視察した生花店は、東京都文京区の店舗で、近隣には住宅街が広がる立地となります。同生花店で売れ筋となる花は、店主によると、「東京都内といえども、昔からの町に店舗を構えており、まだまだ仏事の需要が主流」とのことでした。

一方で、60年も地域に密着して店を経営するなか、売れる花の変遷を感じているとのことで、学生からの取扱品目の質問に対して、「昔はきくが売上のほとんどを占めたが、現在は切花ではきくと洋花が半々ずつであること」「切花の他に鉢花も取り揃えるようになったこと」などを説明されていました。



生花店から話を聞く学生

2 販売時の工夫

農業大学では、生産物の販売実習をしており、販売方法に関する質問も行われました。

同店の販売方法として、床に陳列した鉢物は視界に入りにくいいため、一部を台に乗せて顧客の目に留め、その下に置かれた商品にも目を向けさせていること、目立つ赤色の花を店先に置くなどし、店を目に留まりやすくしていること、店先の商品の配列を定期的に入れ替えて顧客に「あれ？」と気にさせるようにしていることなどが紹介され、学生達は生花店において様々な工夫が重ねられていることを学んでいました。



鉢の陳列・店先の配置を確認

視察した生花店は切花中心の店舗でしたが、切花の魅力は「花の良い所を組み合わせることができ、限られたスペースでも飾ることができること」と話されていました。それぞれの花の魅力や特徴を理解した生産・販売の大切さを教えられた視察で、学生達にとっても良い経験になったことと思います。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
29年実績	904	131 (14%)	968	1,026	長野(55%) 山梨(30%)
30年見通し	900	130	950	1,000	—
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>ぶどう類の作付面積は概ね横ばいだが、シャインマスカットの割合が増加し、巨峰は減少傾向にある。本年の作柄は、前年に比べて1週間ほど前進しており、8月は概ね前年並の入荷を見込むが、高温が続くことから着色不良の発生も懸念される。入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>			<p>単価の高いシャインマスカットへの移行が続き、黒系品種がかなり減少しているが、店舗での色合いや品揃えの観点から巨峰を始めとした黒系品種の安定入荷が強く求められている。産地においても、品質維持とともに巨峰の安定した出荷量の確保をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
29年実績	1,185	559 (47%)	850	979	和歌山(22%) 静岡(10%) 福岡(8%)
30年見通し	1,230	—	810	—	—
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>本年の愛知県産は好天の影響を受けて前進しており、7月下旬から露地物の出荷が始まり盆前にピークを迎える見込み。和歌山、福岡も露地物は生育順調で、盆に向けてピークとなる。特に福岡は前年比大幅増が見込まれる。盆後は8月下旬にかけて入荷量が一度減少した後、9月にかけて再び増加する見込み。一方、各産地では台風12号による下位等級の発生等が懸念される。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>			<p>夏から秋の果物として定着している。愛知県産は、数量があり品質も高く、量販店から支持されている。商品の特性として傷みがでやすく、品質管理が特に重要であるため検品をしっかりと行うとともに、等級別選果の徹底に努めてほしい。生産者の高齢化等により生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	25年	31,543	215	205	221	219	北海道 32%
	26年	30,455	238	216	242	256	長野 25%
	27年	31,113	253	263	263	238	群馬 10%
	28年	31,027	230	239	226	224	兵庫 6%
	29年	31,057	229	213	231	243	岐阜 4%
	5ヵ年平均	31,039	233	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	30,600	223	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。主産地が東日本の品目が多く、7月の豪雨の影響は比較的少ない見込みだが、7月下旬からの高温による葉菜類の生理障害、果菜類の花飛び等に伴う入荷減も懸念される。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
だいこん	25年	1,762	95	82	110	103	北海道 62%
	26年	1,494	103	85	113	115	青森 25%
	27年	1,614	118	103	138	126	岐阜 12%
	28年	1,434	114	95	126	132	長野 1%
	29年	1,459	87	92	95	87	
	5ヵ年平均	1,553	103	91	117	112	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,450	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、青森を中心に入荷する。作付面積は減少傾向。現在の作柄からは前年並の入荷を見込むが、6、7月の天候不順や7月後半からの高温などもあり、今後の天候次第では入荷減も見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	25年	1,802	151	149	161	147	北海道 89%
	26年	2,030	125	127	123	129	青森 10%
	27年	1,924	174	192	162	167	
	28年	1,749	154	178	115	163	
	29年	2,198	71	58	69	86	
	5ヵ年平均	1,941	133	138	124	136	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,000	115	115	115	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に入荷する。北海道の作柄は順調。前年同時期は大幅な入荷増の安値となった。本年は前年に比べると入荷量、価格ともに安定して推移する見込み。 入荷量は前年をかなり下回るが平年よりやや多く、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	25年	126,860	228	223	236	北海道	25%	
	26年	122,553	256	223	261	長野	16%	
	27年	125,582	267	268	270	群馬	15%	
	28年	128,499	235	238	232	青森	6%	
	29年	125,300	248	229	254	茨城	6%	
	5ヵ年平均	125,759	247	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	30年見通し	125,000	255	—	—			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北、高冷産地からの入荷が中心となる。7月の豪雨とそれに伴う陸路寸断、猛暑、干ばつ、台風の影響が残り、前半は品目によって入荷量を減らす。後半は不足感が解消され、入荷は落ち着くか。入荷量は前年並、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>						
だいこん	25年	9,335	92	74	102	101	北海道	76%
	26年	9,348	102	77	112	114	青森	21%
	27年	9,412	121	101	133	128	岩手	2%
	28年	8,636	118	90	137	131	群馬	1%
	29年	9,414	84	84	88	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	5ヵ年平均	9,229	103	85	114	111		
	30年見通し	9,000	120	120	120	120		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森からの入荷がほとんどを占める。北海道は6、7月の長雨により品質や播種への影響があり、前半は品質低下、後半は入荷減が懸念される。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値となった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
にんじん	25年	6,269	147	145	160	140	北海道	87%
	26年	6,875	114	116	113	113	青森	11%
	27年	6,635	167	189	158	155	中国	1%
	28年	6,700	145	169	117	146	千葉	1%
	29年	7,607	71	64	70	78	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	5ヵ年平均	6,817	127	134	122	125		
	30年見通し	6,800	130	150	130	110		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。産地によっては6、7月の干ばつ、高温の影響から肥大不足が予想されるも、目立った病害虫の発生もなく、平年並の入荷が期待される。入荷量は豊作となった前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
はんぱい	25年	1,335	100	96	113	108	長野 100%
	26年	1,423	115	99	136	126	
	27年	1,434	109	104	146	96	
	28年	1,690	56	61	62	58	
	29年	1,636	86	56	82	115	
	5ヵ年平均	1,504	92	82	105	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,500	70	60	70	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野は7月豪雨の被害も少なく、現時点では順調な入荷を見込むが、猛暑が予想されており、高温障害による入荷減と需要の落ち込みも懸念される。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回るが平年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
キヤベツ	25年	4,252	83	76	84	94	群馬 66% 長野 23% 北海道 9% 茨城 1%
	26年	4,048	98	86	105	110	
	27年	4,206	103	103	114	102	
	28年	4,438	77	78	81	79	
	29年	4,289	89	71	97	100	
	5ヵ年平均	4,247	90	83	96	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,300	75	70	75	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>群馬を中心に長野などからも入荷する。現時点の群馬、長野の生育は良好で順調な入荷を見込むが、7月後半からの高温による生育遅れや生理障害などの発生が懸念される。</p> <p>入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	25年	184	658	546	656	797	岐阜 86% 長野 5% 茨城 3% 愛知 2% 静岡 1%
	26年	143	797	689	731	1,017	
	27年	159	867	760	821	789	
	28年	178	682	624	690	795	
	29年	137	806	778	869	809	
	5ヵ年平均	160	755	671	746	836	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	140	800	800	850	750	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>岐阜を中心に入荷する。岐阜は7月豪雨による浸水やハウス内への雨の吹き込みなどの被害があり、盆頃までは入荷が少ない見通し。主要産地の入荷減によって価格も高値推移が予想される。</p> <p>入荷量と価格は概ね前年並だが、平年と比べると入荷減の価格高となる見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

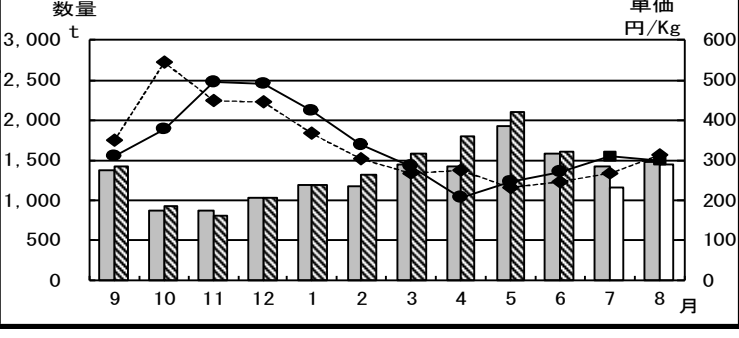
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	25年	5,816	101	93	107	103	長野 95%
	26年	5,529	113	91	128	117	群馬 4%
	27年	6,320	114	102	150	97	北海道 1%
	28年	6,024	57	55	58	57	
	29年	6,926	87	58	83	114	
	5ヵ年平均	6,123	94	79	105	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	6,000	75	70	75	80	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からの入荷が中心となる。6月からの高温、干ばつの影響により結球が悪く、縦伸びするなどの症状も出ており入荷がまとまっていない。今後の降雨次第では数量の回復もあるか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格も前年をかなり下回る見込み。</p>						
キヤベツ	25年	15,333	80	71	81	89	群馬 79%
	26年	14,423	94	73	100	107	岩手 13%
	27年	15,657	103	94	110	105	長野 6%
	28年	16,486	70	66	72	72	北海道 2%
	29年	16,393	82	60	90	96	
	5ヵ年平均	15,658	85	73	90	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	15,500	85	85	85	85	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、岩手からの入荷が中心となる。高冷地は高温や干ばつの影響で生育が停滞しており、東北は乾燥の影響を受けている。入荷は降雨次第となるも、しばらくは少ない状況が続くと見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
ほうれんそう	25年	796	638	522	660	749	群馬 29%
	26年	754	778	661	712	970	栃木 27%
	27年	695	857	797	951	828	茨城 18%
	28年	788	659	583	683	731	岩手 11%
	29年	695	823	834	881	772	岐阜 7%
	5ヵ年平均	746	746	672	771	809	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	670	830	840	850	800	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、栃木など関東高冷地と岩手からの入荷となる。6月までは概ね順調に生育したが、7月以降の高温で生育が停滞する産地も出ている。月の前半はその影響で価格上がるも、後半の入荷量は回復見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	25年	718	427	431	459	415	北海道 36%
	26年	718	421	384	490	413	愛知 10%
	27年	747	425	426	467	408	長野 9%
	28年	732	389	386	401	404	茨城 9%
	29年	697	445	401	488	461	富山 8%
	5ヵ年平均	722	421	406	461	420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	700	420	400	420	440	
ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、愛知、長野などの各産地から入荷する。普通ねぎは北海道や愛知など、白ねぎは北海道や富山などが主要産地となるが、各産地とも概ね生育良好で順調な入荷を見込む。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
し	25年	2,663	140	145	138	155	長野 99%
	26年	2,519	217	176	195	294	愛知 1%
	27年	2,483	197	206	218	183	
	28年	2,429	154	137	160	181	
	29年	2,686	166	139	151	200	
	5ヵ年平均	2,556	174	160	172	202	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,500	160	135	155	180	
ス	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。7月中旬時点の入荷状況は順調で、8月も平年並の入荷を見込むが、7月後半からの高温により生育遅れや結球不良などの生理障害の発生も懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
きゅうり	25年	1,423	295	241	229	421	長野 58%
	26年	1,231	408	230	449	563	北海道 21%
	27年	1,429	315	297	310	371	山形 7%
	28年	1,643	239	214	208	300	山梨 4%
	29年	1,479	313	253	305	370	岩手 3%
	5ヵ年平均	1,441	309	247	293	397	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,450	300	300	300	300	
り	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野を中心に北海道などから入荷する。7月中旬現在は、北海道や東北産地が天候不順により入荷を減らしているが、8月には回復してくると予想される。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	25年	4,605	379	378	448	340	茨城 29%
	26年	4,560	341	303	409	320	青森 16%
	27年	4,629	392	370	453	367	秋田 13%
	28年	4,184	310	265	356	321	北海道 12%
	29年	4,320	413	368	510	404	中国 4%
	5カ年平均	4,460	368	338	436	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,300	330	310	340	340	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、東北、北海道からの入荷となる。日照不足、干ばつ等で遅れ気味となっていた生育は回復に向かう。また主力の茨城が8月前半には終盤を迎えることから、後半の相場は上昇すると見込まれる。 入荷量は前年並、価格は高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
し	25年	10,171	140	139	134	148	長野 89%
	26年	8,784	194	181	198	320	群馬 8%
	27年	9,585	198	206	216	177	岩手 1%
	28年	10,216	145	122	144	172	千葉 1%
	29年	10,160	168	130	151	219	茨城 1%
	5カ年平均	9,783	168	154	167	204	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	9,500	130	120	120	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。長野は7月下旬の降雨で干ばつの影響が一段落し、順調な入荷が予想される。群馬は干ばつの影響が残り小玉の仕上がりとなり、順調だった前年を下回る見込み。 入荷量は順調だった前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅうり	25年	8,008	264	217	184	396	福島 43%
	26年	7,157	391	194	451	559	岩手 24%
	27年	8,160	289	267	250	360	秋田 13%
	28年	9,054	208	177	191	259	山形 6%
	29年	7,691	306	242	310	362	青森 4%
	5カ年平均	8,014	287	219	271	380	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	7,700	300	290	290	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手からの入荷が中心となる。主産地である東北が干ばつ傾向で入荷が減り相場が高騰していたが、露地物の入荷が本格化することで落ち着きを見せる。7月の高温による着花への影響が懸念材料に。 入荷量は前年並、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	25年	997	202	230	165	221	愛知 36%
	26年	840	329	275	364	358	徳島 21%
	27年	1,094	278	333	277	245	山梨 19%
	28年	1,110	216	255	188	203	茨城 8%
	29年	955	285	287	276	292	岐阜 6%
	5ヵ年平均	999	259	277	249	259	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,000	265	280	250	260	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、徳島、山梨を中心に入荷する。愛知、山梨、茨城は順調だが、徳島と岐阜は7月豪雨の被害により、中旬以降の入荷に影響が出る可能性がある。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	25年	1,881	313	326	281	334	岐阜 58%
	26年	1,839	299	262	262	363	北海道 20%
	27年	1,702	304	273	282	361	愛知 12%
	28年	1,949	275	301	248	278	長野 4%
	29年	1,580	351	295	318	433	熊本 2%
	5ヵ年平均	1,790	307	292	277	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,750	340	300	300	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。岐阜は盆頃までは順調な入荷を見込むが、7月の長雨後の高温による花飛びの発生など、中旬以降の入荷に影響が出る可能性がある。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	25年	450	562	523	517	628	北海道 75%
	26年	457	511	482	453	589	長野 10%
	27年	441	571	578	568	595	愛知 8%
	28年	500	607	694	587	541	岩手 2%
	29年	576	653	556	608	767	茨城 2%
	5ヵ年平均	485	585	568	550	630	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	500	580	600	550	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。北海道の作柄は順調で安定した入荷を見込む。前年は7、8月の入荷量が大幅増となったが、今年は平年並の入荷となる見通し。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回るが、概ね平年並となる見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	25年	5,478	207	227	148	248	群馬 29%
	26年	4,621	297	223	330	343	栃木 27%
	27年	5,126	266	283	245	272	茨城 26%
	28年	4,547	234	256	184	255	埼玉 5%
	29年	4,794	298	297	288	307	岩手 3%
	5ヵ年平均	4,913	259	257	236	284	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,900	270	260	260	290	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも高温、乾燥の影響が散見されるも、生育は概ね順調。前半までは入荷量が増え、後半も降雨次第となるがまとまった入荷が見込まれる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値となった前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	25年	10,266	289	300	253	308	青森 20%
	26年	9,833	264	239	233	320	北海道 18%
	27年	9,009	294	257	257	387	福島 16%
	28年	10,663	262	288	238	256	群馬 12%
	29年	8,286	332	228	304	400	岩手 9%
	5ヵ年平均	9,611	286	264	255	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	8,500	350	350	340	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、北海道、福島、群馬からの入荷が中心となる。各産地とも前半は旧盆に向けて増加が予想されるが、後半になると7月の高温などの影響により量を減らす産地も出る。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	25年	1,643	561	544	540	590	北海道 33%
	26年	1,702	552	509	524	619	青森 20%
	27年	1,743	599	551	569	673	岩手 13%
	28年	1,914	614	688	600	562	茨城 10%
	29年	1,875	682	592	644	793	福島 10%
	5ヵ年平均	1,775	604	580	578	649	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,800	650	650	650	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北各産地からの入荷が中心となる。北海道はこれまでの生育遅れが天候回復に伴い解消、このまま8月に入荷ピーク迎える。やや小玉傾向で入荷量は減少すると見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格も前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	25年	442	323	441	292	319	北海道 46%
	26年	424	315	270	292	409	岩手 31%
	27年	482	424	407	460	448	長野 12%
	28年	442	279	347	306	297	茨城 3%
	29年	392	403	387	427	461	青森 2%
	5ヵ年平均	436	349	372	356	386	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	400	380	400	360	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>					
<p>北海道、岩手を中心に入荷する。北海道は6～7月の長雨により入荷は若干少ないとみられる。岩手は干ばつが続いており、盆明け以降は減少する見通し。 入荷量は前年並だが平年より少なく、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
ばれいしょ	25年	1,974	177	215	193	149	北海道 82%
	26年	2,296	132	140	131	132	青森 15%
	27年	2,438	142	171	152	125	静岡 1%
	28年	2,480	147	164	153	143	長崎 1%
	29年	2,167	117	114	114	123	
	5ヵ年平均	2,271	142	160	148	134	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,200	100	110	100	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>					
<p>北海道を中心に青森などから入荷する。現在の市況は入荷量が多く、加工等の需要も低調なことから安値が続く。北海道は6～7月の曇雨天で若干遅れており、価格は上向く見込みだが平年を大きく下回る。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をかなり下回る見込み。</p>							
たまねぎ	25年	4,178	102	103	107	100	北海道 47%
	26年	3,982	126	129	137	121	兵庫 43%
	27年	3,795	139	160	142	124	愛知 4%
	28年	3,439	176	211	189	155	愛媛 4%
	29年	4,084	84	90	87	81	
	5ヵ年平均	3,896	123	136	130	115	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,100	90	100	90	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>					
<p>北海道、兵庫を中心に入荷する。兵庫は作柄良好だが人手不足で選果が遅れ、盆明け以降も入荷が続く見込み。北海道は生育順調で、盆明けからまとまった数量が入荷するとみられる。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	25年	2,052	265	377	213	231	岩手 46%	
	26年	1,841	319	282	290	384	茨城 19%	
	27年	1,860	398	371	451	382	青森 16%	
	28年	2,162	229	288	202	202	青森 13%	
	29年	1,949	373	335	386	399	高知 1%	
	5ヵ年平均	1,973	314	330	304	315	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	30年見通し	1,900	300	320	300	280		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、福島など東北産地と茨城からの入荷が中心となる。各産地とも高温、干ばつ等で入荷量を減らしていたが、生育遅れの回復や露地物が出揃うことでまとまった量の入荷が期待される。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
	<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>							
	白菜	25年	5,507	171	195	181	154	北海道 72%
26年		6,413	131	131	130	130	茨城 10%	
27年		6,961	133	154	133	121	青森 8%	
28年		6,503	147	158	145	143	千葉 5%	
29年		6,290	124	117	125	130	福島 1%	
5ヵ年平均		6,335	140	150	142	135	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
30年見通し		6,300	90	100	90	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に茨城、青森からの入荷となる。北海道は6、7月の低温、長雨等により、芋の肥大や品質が懸念される産地もある。入荷への影響は限定的だが、販売は苦しい展開続くか。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>								
たまねぎ		25年	9,797	112	115	115	109	北海道 48%
	26年	10,162	132	131	135	130	兵庫 27%	
	27年	10,359	134	160	134	118	佐賀 14%	
	28年	9,412	170	191	177	152	中国 4%	
	29年	10,166	88	89	91	85	香川 3%	
	5ヵ年平均	9,979	127	137	130	118	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	30年見通し	10,000	80	90	80	70		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、兵庫からの入荷が中心となる。北海道は6、7月の天候不順により前進傾向だった生育が鈍化。長雨の影響で病気の発生も見られ、一部の産地では入荷減が懸念される。兵庫は大玉傾向で残量も多い。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
	<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>							

名古屋市中央卸売市場

※「その他メロン」は「アールスメロン」以外のメロンをいう。

7月20日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	25年	11,231	351	369	327	350	長野 24%
	26年	10,208	361	352	365	359	山形 15%
	27年	8,950	435	444	445	419	フィリピン 13%
	28年	9,757	401	436	381	357	愛知 10%
	29年	9,919	393	432	381	358	青森 9%
	5ヵ年平均	10,013	386	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	10,200	380	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、もも、なしなどを中心に入荷する。全体的に前進傾向で、もも、なしなどでは入荷時期が大きく前倒した。8月は順調な入荷を見込むが、高温が続くため、小玉化や落果等の発生も懸念される。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
アール メロン	25年	271	507	—	—	—	愛知 57%
	26年	248	537	—	—	—	静岡 23%
	27年	221	641	—	—	—	茨城 10%
	28年	247	553	—	—	—	青森 7%
	29年	260	550	—	—	—	高知 2%
	5ヵ年平均	250	555	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	250	550	—	—	—	
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に静岡、茨城などから入荷する。愛知、静岡はともに前進傾向で、8月初旬が入荷ピークとなる見通し。7月現在の見通しは概ね平年並の入荷を見込むが、高温による品質低下も懸念される。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。						
すいか	25年	2,595	174	165	185	201	山形 42%
	26年	2,470	132	145	141	111	長野 34%
	27年	1,901	213	212	234	193	青森 13%
	28年	2,256	183	207	179	121	秋田 7%
	29年	2,776	165	205	151	106	北海道 1%
	5ヵ年平均	2,400	171	185	175	144	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,500	170	—	—	—	
すいか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に青森などからも入荷する。前年8月は7月入荷分が後ろにずれこみ大幅増となったが、本年は各産地とも生育順調。長野は大玉傾向で、山形は上旬から入荷量が増加する見通し。入荷量は前年をかなり下回り、価格はやや上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	25年	41,184	339	354	328	330	山形 21%
	26年	40,624	348	334	365	348	山梨 12%
	27年	36,074	423	417	446	411	福島 10%
	28年	40,346	379	417	371	340	青森 8%
	29年	39,014	398	434	401	357	長野 7%
	5ヵ年平均	39,448	376	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
30年見通し	39,500	390	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	なし、もも、ぶどうを中心に入荷する。7月は気温の高い日が続き果実全般で生育が前進し、すいか等の引き合いが強かった一方で、巨峰等では着色遅れも見られた。また、前進傾向の反動により盆明けに一度入荷量が落ち込む見通し。入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
アールスメロン	25年	682	501	505	589	453	静岡 31%
	26年	632	540	518	666	462	茨城 30%
	27年	590	659	639	787	591	青森 20%
	28年	603	546	600	586	454	山形 8%
	29年	649	546	600	661	453	愛知 5%
	5ヵ年平均	631	556	570	656	481	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
30年見通し	630	560	570	660	450		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、茨城を中心に入荷する。静岡は果実肥大は良いが、高温により果形やネットのはりに影響が出ている。茨城は8月上旬がピークで、その後は減少しつつ10月まで入荷が続く見込み。台風の影響が懸念されるが、入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。						
すいか	25年	9,270	174	157	182	210	山形 57%
	26年	11,171	137	140	141	124	長野 12%
	27年	8,465	213	206	238	189	秋田 11%
	28年	9,980	175	205	161	118	青森 8%
	29年	10,196	166	200	154	110	神奈川 5%
	5ヵ年平均	9,816	171	180	172	147	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
30年見通し	10,100	170	210	160	140		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に入荷する。高温が続くため、強い需要のまま推移している。山形は7月末から8月上旬までが入荷ピークとなる見込み。長野は7月末からがピークで、4L～3Lが中心となる見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに上回る見込み。						

切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	25年	2,289	56		
		26年	2,163	60		
		27年	2,200	60		
28年		2,641	55			
29年		2,381	58			
5ヶ年平均		2,335	58			
30年見通し		2,500	60			
概要	<p>愛知、長野、三重などから入荷する。猛暑続きで高温抑制が掛かり、咲足が鈍っている。大きな山もなく、緩慢な入荷になると思われる。前年ほどではないが、盆前は品薄感があり堅調となるものの、盆明けは厳しい展開が心配される。</p>					
小 ぎ	実績	25年	2,696	31		
		26年	2,082	37		
		27年	1,704	47		
28年		2,477	36			
29年		1,931	37			
5ヶ年平均		2,178	37			
30年見通し		2,400	36			
概要	<p>愛知、長野、奈良、埼玉、岩手などから入荷する。猛暑の影響も一部あるが、やや前進している産地があり、盆に向け入荷は増えてくる。盆は堅調に推移するが、後半は反動安の可能性もある。</p>					
カ ー ネ ー シ ョ ン	実績	25年	1,167	46		
		26年	1,185	48		
		27年	1,200	45		
28年		1,347	44			
29年		1,281	48			
5ヶ年平均		1,236	46			
30年見通し		1,300	45			
概要	<p>長野を中心に北海道などから入荷する。全体で1週間ほど前進傾向にあり、後半はスプレーが品薄となる見込み。</p>					
か す み 草	実績	25年	103	121		
		26年	104	130		
		27年	118	117		
28年		138	89			
29年		121	95			
5ヶ年平均		117	109			
30年見通し		130	100			
概要	<p>長野、福島から入荷する。気温の変化が激しく、入荷は不安定。一般需要が少なく、業務も少ない時期となるため、全体では厳しい販売となる見込み。</p>					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	25年	433	159	
		26年	401	166	
		27年	237	96	
		28年	455	159	
		29年	428	152	
	5ヶ年平均		391	151	
	30年見通し		420	155	
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、北海道から入荷し、前年並の入荷見込み。LAは新潟、埼玉から入荷し、前年並の入荷見込み。鉄砲は兵庫、愛媛、長野から入荷するが、生産量が減っており入荷は少ない見込み。天候によるが全体的な花不足から価格は前年より高まる可能性が大きい。</p>				
洋らん	実績	25年	484	83	
		26年	402	108	
		27年	507	82	
		28年	453	86	
		29年	484	78	
	5ヶ年平均		466	87	
	30年見通し		450	85	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国内物や輸入物が入荷する。猛暑が続き、花持ちが悪く、開花が遅れたり、障害の出る物も見られる。品質の差によっては、単価の開きが大きくなる見込み。</p>				
ばら	実績	25年	623	54	
		26年	428	102	
		27年	580	57	
		28年	695	49	
		29年	566	60	
	5ヶ年平均		578	62	
	30年見通し		620	50	
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷する。記録的な猛暑が続く中、花の大きさの回復はなかなか見込めないが、盆明けには伊勢の出荷も再開する。需要も盆明け頃から徐々に増えてくると思われる。一日も早く品質の回復を願いたい。</p>				
枝もの	実績	25年	2,073	55	
		26年	1,949	61	
		27年	1,898	66	
		28年	2,028	66	
		29年	1,766	68	
	5ヶ年平均		1,943	63	
	30年見通し		2,000	66	
概要	<p>九州、静岡、長野から盆商材が入荷する。稽古、アレンジ花材は需要も少なく、軟調。盆商材は前年ほどの引き合いはないが、堅調となる見込み。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	25年	14,493	989	
		26年	13,836	943	
		27年	11,729	863	
		28年	12,095	900	
		29年	9,275	948	
	5ヶ年平均	12,286	931		
	30年見通し	9,000	944		
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少か。作付けは大きな変更なく、6号サイズでMIXでの入荷が多い。色別では赤、白の引き合いが強く、特殊な色は苦戦すると思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで、1位愛知（95.8%）、2位福岡（1.9%）、3位岐阜（0.9%）となっている。</p>				
シ ヤ コ バ サ ボ テ ン	実 績	25年	7,746	334	
		26年	7,616	342	
		27年	10,346	336	
		28年	7,405	369	
		29年	8,559	403	
	5ヶ年平均	8,334	356		
	30年見通し	8,600	395		
概要	<p>作付が前年並のため、入荷量も前年並となる見込み。近年、需要が小鉢化傾向にあり、3.5号～5号の引き合いが強く、6号以上はやや苦戦が予想される。一昨年前より荷主が減少し、競売にかかる割合が減少しているため価格面では安定すると思われる。ただし、今年の異常な猛暑により、蕾が咲かずに落ちたり、根腐れ、高温障害等になりやすく、来年以降の販売に影響しそうである。 前年8月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで、1位埼玉（74.7%）、2位愛知（20.6%）となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	25年	6,156	100	
		26年	4,430	109	
		27年	6,714	141	
		28年	9,230	95	
		29年	7,147	119	
	5ヶ年平均	6,735	112		
	30年見通し	6,000	142		
概要	<p>入荷量は前年より大幅に減少か。6～7月の天候不順や現在の販売情勢から作付け及び入荷への影響が続いている。3～4号の小鉢中心の入荷になるが、開花調整と水管理に注意して出荷をお願いしたい。 前年8月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで、1位岐阜（51.2%）、2位愛媛（46.0%）、3位埼玉（1.4%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジユ	実績	25年	3,000	800	
		26年	2,833	781	
		27年	2,858	695	
		28年	3,131	656	
		29年	1,633	776	
	5ヶ年平均		2,691	737	
	30年見通し		1,600	750	
ウム	概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少か。生産量が減少しているにもかかわらず、単価が伸びないことが要因とみられる。また、猛暑により蕾が黄化する花飛びの症状も出るため、入荷量はさらに減少する見込み。気温が高く開花も早いため、固めの出荷をお願いしたい。前年8月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで、1位愛知(57.3%)、2位長崎(30.4%)、3位高知(6.6%)となっている。</p>			
スパティ	実績	25年	8,796	201	
		26年	8,066	184	
		27年	4,715	275	
		28年	835	452	
		29年	1,496	342	
	5ヶ年平均		4,782	227	
	30年見通し		1,400	321	
ラム	概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少か。入荷の谷間であるため、5～6号が中心になるが、3.5～4号の入荷もある。鉢サイズと花立ちのバランスの良いものは安定した引き合いがある見込み。前年8月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで、1位岐阜(35.1%)、2位愛知(33.6%)、3位福岡(26.9%)となっている。</p>			
ドラセナ	実績	25年	20,531	725	
		26年	15,599	915	
		27年	24,000	750	
		28年	15,486	783	
		29年	12,613	926	
	5ヶ年平均		17,646	804	
	30年見通し		11,000	909	
類	概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少か。愛知県産が中心であるが、輸入原木の減少から入荷減が見込まれる。入荷の中心は定番の7号が中心となると思われる。前年8月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで、1位愛知(70.3%)、2位沖縄(8.9%)、3位鹿児島(7.0%)となっている。</p>			



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.542
平成30年8月発行
農林水産部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434